

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年6月10日

【四半期会計期間】 第71期第1四半期
(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

【会社名】 株式会社アイレックス

【英訳名】 AIREX INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 西崎 義彦

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋本町四丁目8番14号

【電話番号】 (03) 3245-2011

【事務連絡者氏名】 経理部長 石井 一夫

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋本町四丁目8番14号

【電話番号】 (03) 3245-2011

【事務連絡者氏名】 経理部長 石井 一夫

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

1 【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社は、一部の事業所において行われていた不適切な取引について、親会社の社員から構成される内部調査委員会及び当社と利害関係を有しない外部の専門家から構成される第三者委員会をそれぞれ設置し調査を進めてまいりました。当社は、平成25年6月10日付で第三者委員会からの調査報告を受けるとともに、連結財務諸表の修正等必要と認められる訂正を行いました。

これらの訂正の結果、当社が平成24年8月14日に提出いたしました第71期第1四半期（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）に係る四半期報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、四半期連結財務諸表の記載内容にかかる訂正箇所につき、XBRLデータの訂正を行いましたので、併せて訂正後のXBRL形式のデータ一式（表示情報ファイルを含む）を関連書類として提出いたします。

訂正後の四半期連結財務諸表について、聖橋監査法人により四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

(1) 業績の状況

(2) 財政状態の分析

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

注記事項

(1株当たり情報)

3 【訂正箇所】

訂正箇所は__を付して表示しております。

なお、訂正箇所が多数に及ぶことから上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等
(訂正後)

回次		第70期 第1四半期 連結累計期間	第71期 第1四半期 連結累計期間	第70期
会計期間		自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 6 月30日	自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 6 月30日	自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日
売上高	(千円)	<u>825,220</u>	<u>824,705</u>	<u>3,488,331</u>
経常利益	(千円)	<u>64,969</u>	<u>42,221</u>	<u>273,191</u>
四半期(当期)純利益	(千円)	<u>47,895</u>	<u>17,402</u>	<u>186,133</u>
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	<u>49,691</u>	<u>5,564</u>	<u>215,824</u>
純資産額	(千円)	<u>541,004</u>	<u>712,701</u>	<u>707,137</u>
総資産額	(千円)	<u>1,450,619</u>	<u>1,429,904</u>	<u>1,502,688</u>
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	<u>1.63</u>	<u>0.59</u>	<u>6.33</u>
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	<u>0.78</u>	<u>0.34</u>	<u>3.08</u>
自己資本比率	(%)	<u>29.13</u>	<u>40.52</u>	<u>38.34</u>

～ 注略 ～

第2 【事業の状況】

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、東日本大震災の復興需要を背景にして企業の生産や個人消費が緩やかに回復していく中で、企業収益もようやく下げ止まりを見せ持ち直しの動きが見えるようになってまいりました。一方、世界経済においては、雇用環境の改善の遅れや一部の国々における財政の先行き不安から欧米諸国における景気回復の動きは非常に弱く、またアジア諸国においても景気の拡大テンポが鈍化してきていることから、全体として緩やかな動きになっております。

情報サービス業界におきましては、受注ソフトウェアやシステムインテグレーション、ソフトウェアプロダクツの分野では概ね前年度より増加傾向で推移しておりますが、景気回復が足踏み状態にあることを反映して非常に緩やかな動きのまま推移いたしました。

このような事業環境下で、当社グループは引き続き経営の効率化、及び新規顧客開拓等による事業拡大を図り更なる利益体質の強化に日々努め、従来からの既存市場への取り組みに加え、「安全・安心・快適」をキーワードとする3つの伸長分野（セキュリティ・ヘルスケア・ICT）へのソリューションビジネスの拡大を推進しております。

(訂正後)

売上高及び営業利益

当第1四半期連結累計期間における当社グループは、引き続き業務改革、事業構造改革等に注力し、また、新規ソリューションビジネスの拡大を推進いたしましたが、売上高は前年同四半期と比べ、514千円（0.1%）減少し824,705千円となり、また、営業利益は前年同四半期と比べ22,309千円（36.2%）減少し39,336千円となりました。

経常利益

営業外損益では、受取利息及び配当金、受取賃貸料等の営業外収益が3,223千円ありましたが、営業外費用で支払利息が338千円あり、その結果、当第1四半期連結累計期間の経常利益は前年同四半期と比べ22,747千円（35.0%）減少し42,221千円となりました。

四半期純利益

特別損益では、特別損失で投資有価証券評価損が235千円あり、また、法人税等を21,994千円計上したことにより、当第1四半期連結累計期間の四半期純利益は、前年同四半期と比べ30,493千円（63.7%）減少し17,402千円となりました。

なお、当社グループの事業は、システム開発並びにこれらの付随業務を事業内容とする単一セグメントであるため、セグメント別の状況は記載しておりません。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産は、現金及び預金等が増加いたしました但受取手形及び売掛金等が減少し、前連結会計年度末より59,434千円減少し1,075,946千円となりました。

固定資産では、一部の保有株式の時価の下落による投資有価証券の減少等により、前連結会計年度末より13,350千円減少し353,957千円となりました。

その結果、資産合計は前連結会計年度末より72,784千円減少し1,429,904千円となりました。

(負債)

流動負債は、支払手形及び買掛金や短期借入金、未払法人税等の減少等により、前連結会計年度末より80,844千円減少し597,738千円となりました。

固定負債は、退職給付引当金の増加等により2,495千円増加し119,464千円となりました。

その結果、負債合計は前連結会計年度末より78,348千円減少し717,202千円となりました。

(純資産)

純資産は、一部の保有株式の時価が下落したことによりその他有価証券評価差額金が14,140千円減少いたしました但四半期純利益17,402千円の計上により、前連結会計年度末より5,564千円増加し712,701千円となりました。

第4 【経理の状況】

1 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】
(訂正後)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	252,947	308,402
受取手形及び売掛金	771,547	651,467
商品及び製品	-	885
仕掛品	51,214	50,225
原材料及び貯蔵品	599	755
その他	59,072	64,210
流動資産合計	1,135,380	1,075,946
固定資産		
有形固定資産	77,384	76,960
無形固定資産	31,504	37,362
投資その他の資産		
投資有価証券	188,722	167,595
その他	72,350	74,693
貸倒引当金	2,654	2,654
投資その他の資産合計	258,418	239,634
固定資産合計	367,307	353,957
資産合計	1,502,688	1,429,904
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	234,012	202,065
短期借入金	241,798	169,467
未払法人税等	41,434	18,368
賞与引当金	70,504	108,950
その他	90,834	98,885
流動負債合計	678,582	597,738
固定負債		
退職給付引当金	96,343	103,418
その他の引当金	8,059	8,610
その他	12,564	7,435
固定負債合計	116,968	119,464
負債合計	795,551	717,202
純資産の部		
株主資本		
資本金	80,000	80,000
資本剰余金	35,710	35,710
利益剰余金	433,878	451,281
自己株式	653	653
株主資本合計	548,935	566,338
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	27,161	13,020
その他の包括利益累計額合計	27,161	13,020
少数株主持分	131,040	133,342
純資産合計	707,137	712,701
負債純資産合計	1,502,688	1,429,904

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(訂正後)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	825,220	824,705
売上原価	653,788	692,216
売上総利益	171,431	132,488
販売費及び一般管理費		
販売費	1,281	2,059
一般管理費	108,503	91,093
販売費及び一般管理費合計	109,785	93,152
営業利益	61,645	39,336
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,530	1,949
受取賃貸料	1,257	1,257
その他	838	16
営業外収益合計	4,626	3,223
営業外費用		
支払利息	1,021	338
その他	281	-
営業外費用合計	1,302	338
経常利益	64,969	42,221
特別利益		
投資有価証券売却益	882	-
特別利益合計	882	-
特別損失		
投資有価証券評価損	-	235
特別損失合計	-	235
税金等調整前四半期純利益	65,851	41,986
法人税等	14,758	21,994
少数株主損益調整前四半期純利益	51,093	19,992
少数株主利益	3,197	2,590
四半期純利益	47,895	17,402

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】
(訂正後)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	51,093	19,992
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,401	14,428
その他の包括利益合計	1,401	14,428
四半期包括利益	49,691	5,564
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	46,509	3,262
少数株主に係る四半期包括利益	3,182	2,302

【注記事項】

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

(訂正後)

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	1円63銭	0円59銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	47,895	17,402
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	47,895	17,402
普通株式の期中平均株式数(株)	29,411,594	29,411,594
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	0円78銭	0円34銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	32,000,000	21,333,333
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 6月10日

株式会社アイレックス
取締役会 御中

聖橋監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 松田 信彦 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 永田 敬 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アイレックスの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アイレックス及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して平成24年8月14日に四半期レビュー報告書を提出した。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。